

英語

I

■出題のねらい

日常的な会話の内容を正確に理解する力を問う問題です。2人のやりとりを見失わないようにしながら、細かい情報を読み取りましょう。空所補充問題は、特に空所前後の会話をしっかり読みながら、文脈に合う選択肢を選ぶ必要があります。内容読解問題は、話者が2人いるので、どちらの人物について当てはまる内容なのか、それとも両方の人物について当てはまる内容なのかにも注意しながら読み進めると、正答を導くことができます。

■採点講評

1と3は正答率が9割と非常に高く、4と5も6～7割の高い正答率だったので、会話の流れをしっかりと掴みながら読解できた受験生が多かったです。一方、2は正答率が3割半ばで、大問Iで最も低かったです。選択肢の熟語を知らなかった受験生が多かったのかもしれませんが、しっかりと英語の表現力も普段から身に付けていきましょう。

II

■出題のねらい

ボードゲーム大会の案内を読み、ポイントとなる情報を的確に読み取る力を問う問題です。案内の目的、参加方法、申し込みの有無など、様々な情報が散りばめられています。特に、4人制ゲームと2人制ゲームで参加方法やルールが異なっているので、混同しないようにしましょう。また、ラッキー賞という特別賞も設けられており、トーナメントの賞と混同せずに情報を整理する必要があります。

■採点講評

大問I同様、7と8は正答率が8割程度、9と10は6割半ばの正答率でした。大問IIは内容を把握しながら読解できた受験生が多かったです。一方、英単語の置き換え問題である6は正答率が4割でした。適切な英単語(熟語)を選択するのが苦手な受験生が一定数いました。英語の表現を覚えるのは大変ですが、コツコツと学習し、正答率のUPを目指しましょう。

III

■出題のねらい

温暖化の影響の一つとして、世界各地の生態系で様々な影響が生まれています。日本の近海では、元々は四国や紀伊半島付近に生息していたサンゴの一種（エダミドリイシ）が生息域を北東に広げ、現在は房総半島沿岸の東京湾の入口付近にも生息しています。こうした状況を記述した英文を読み、地理や気象、生態系への影響などの情報を的確に読み取る問題です。地図に示された地域名や位置関係、千葉県鋸南町勝山にあるダイビングショップのオーナーの発言、海面温度の統計的数値などに注目し、それらを正確に読み解くことで、正答を導くことができます。

■採点講評

サンゴの一種であるエダミドリイシという聞きなれないテーマであったからか、A日程1日目の大問の中で、最も正答率が低かったです。特に、とは正答率が3割程度でした。に関しては、文脈を理解したうえで、論理的に合う組み合わせを選ぶ難易度の高い問題となっています。馴染みのないテーマであったかもしれませんが、本文で使用されている英語自体はそれほど難易度の高いものではありません。長文ではないので、落ち着いて読めば、正答を導くことができます。

IV

■出題のねらい

地元の特産を町役場の部署の名前として採用し、地域活性化に取り組む自治体に関する英文です。大部分は長崎県の「五島うどん課」に関する内容ですが、後半には他県における同様の事例が複数登場します。指示語に注意し、どの部署について述べられているかを整理しながら、部署新設の背景にある地域社会の現状や、新設後の取り組みと効果について、丁寧に読解しましょう。金額などの数値情報を正確に捉えることもポイントです。

■採点講評

五島うどんを知っているという受験生は多くなかったかもしれませんが、うどんというかなり日常で馴染み深いテーマだったことで、全体的に内容を把握しながら読み進められた受験生が多かったです。最も正答率の低いで、4割半ばでした。それ以外はすべて5割以上の正答率であり、なかでも、、、、が正答率8割前後でした。誤った選択肢を選んだ割合のなかで、の②、の③、の④、の④が2割程度でした。細かな情報も逃さず、英文の意味を読み間違えないように落ち着いて読めば、正答を導くことができます。

V

■出題のねらい

基本的な慣用表現 (get along with / be about to / go well) と、関係副詞の使い方および仮定法過去を問いました。いずれも大学入学後の学びと実践に不可欠な知識です。英熟語とその例文を繰り返し学習し、身に付けましょう。

■採点講評

各問の正答の並び替えは以下となります。

- 1) Do they get along with each
- 2) was about to cry when she
- 3) The cram school where I learn math from
- 4) it were not for / would not go well

1)、3)、4) はいずれも8割を超える高い正答率でした。基本的な構文・文法を適切に運用できるようにしておきましょう。一方、2) は5割強の正答率で、be about to という表現を覚えていない受験生が一定数いました。繰り返しにはなりますが、コツコツと学習していきましょう。